

# 教育研究業績書

2025年10月20日

所属：環境共生学科

資格：講師

氏名：天沼 紘理

研究分野		研究内容のキーワード		
環境システム学、環境経済学、森林工学、地理情報科学		環境問題、気候変動、適応策、緩和策、意思決定、森林バイオマス、リモートセンシング		
学位		最終学歴		
修士(農学)、博士(環境学)見込		東京大学大学院 新領域創成科学研究科 環境システム学専攻 単位取得退学		
教育上の能力に関する事項				
事項	年月日		概要	
1 教育方法の実践例				
2 作成した教科書、教材				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他				
職務上の実績に関する事項				
事項	年月日		概要	
1 資格、免許				
2 特許等				
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
4 その他				
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 科学的知見に基づく 地域特性を考慮した 気候変動適応策立案 支援システムの開発 (査読無)	共	2025年5月	グローバルネット, 5, 414	天沼繪理, 肱岡靖明 本研究では、将来の気候条件下における農業経営による所得を推定し、10種類の果樹を対象に、特定の自治体において、適応策として作物品目転換の可能性を検討した。
2. Decision Analysis for Prioritizing Climate Change Adaptation Options : A Systematic Review (査読有)	共	2024年8月1 日	Environmental Research Letters. 19, 083004. doi:10. 1088/1748-9326/ ad61fe	Eri Amanuma, Minoru Fujii, Kenichi Nakajima, and Yasuaki Hijioka 気候変動への適応実践には、複数の適応策の中から効果的な対策の優先順位付けを行う必要がある。本論文では、先行研究レビューによって抽出した優先順位付け手法を、将来の不確実性への対処の程度に応じて3つの手法グループ（①確実に見通せる未来、②複数の可能性がある未来、③深い不確実性下の未来）に分類した。
3. Perception and Attitude Changes of Stakeholders for Resilient City Policy by Online Deliberation (査読 有)	共	2021年11月	Frontiers in Sustainable Cities, 2021 <a href="https://doi.org/10.3389/frsc.2021.763758">https://doi.org/10.3389/frsc.2021.763758</a>	Kenshi Baba, Eri Amanuma, and Asako Iwami 防災分野における気候変動への適応策について、専門家の知見と参加者相互の議論を交えたオンライン熟議実験を行い、熟議前後の発言データ（掲示板のテキストデータ）とアンケートデータを用いて、参加者の認識や意識の変化を分析した。
4. Attitude changes of stakeholders towards climate change adaptation	共	2021年5月	Climate, 2021, 9 (5), 75; <a href="https://doi.org/10.3390/cli9050075">https://doi.org/10.3390/cli9050075</a>	Kenshi Baba, Eri Amanuma, and Motoko Kosugi 農業に携わる農家や関係者、農業生産に関心のある農村に住む非農家からなるオンライン・バーチャル・コミュニティを立ち上げ、14日間、気候変動の影響下における30年後の重要な気候変動適応政策

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
policies in agricultural sector by online deliberation (査読有) 5. オンライン熟議実験を用いた防災分野の気候変動適応策を巡るステークホルダーの態度変容分析 (査読有)	共	2019年8月	土木学会論文集G (環境) Vol. 75 No. 6, II_151-II_159	を特定するための熟議を、専門家の関連知識を交えて実施した。統計解析により、参加者の意識の変化を分析し、オンライン熟議の影響を明らかにした。  馬場健司、岩見麻子、天沼絵理 防災分野における気候変動適応策を題材としてオンライン熟議実験を実施し、事前・事後のアンケート調査から、参加者の適応策に対する認知の変化や選好を明らかにした。統計解析により、参加者の認知・選好の変化を分析し、オンライン熟議の影響を明らかにした。
<b>その他</b>				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. Prioritization of Fruit Crops for Crop Switching as an Adaptation Option Under Climate Change Uncertainties	共	2022年12月	AGU Fall Meeting, Chicago, USA	Eri Amanuma, Gen Sakurai, Minoru Fujii, Kenichi Nakajima, and Yasuaki Hijioka 気候変動適応策の一つである作物品目の転換の実行可能性を検討するため、地方公共団体ごとの将来予測作物収量データを用いて、10種類の果樹作物を対象に将来の農業経営による所得の推定を行った。
2. 気候変動適応策優先順位付けのための意思決定分析：システムティックレビュー	共	2022年9月	環境科学会2022年会、オンライン	天沼絵理、藤井実、中島謙一、肱岡靖明 先行研究レビューによって抽出した気候変動適応策の優先順位付けのための意思決定手法を、将来の不確実性への対処の程度に応じて3つの手法グループに分類した。 優秀発表賞 富士電機賞 ポスドクおよび博士課程学生の部を受賞した。
3. Estimating Above-Ground Biomass in Tropical Montane Forest in Sabah, Malaysia using Sentinel-2 Image	共	2019年7月	The International Conference on Tropical Forest Science, Kota Kinabalu, Malaysia	Eri Amanuma, Satoshi Tsuyuki, and Mui-How Phua 光学人工衛星のリモートセンシングデータを用いた多変量解析によって、マレーシア・ボルネオ島の熱帯山地林の地上バイオマス量の推定を行った。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 科学的知見に基づく地域特性を考慮した気候変動適応策立案支援システムの開発	共	2025年2月9日	環境研究総合推進費2G-2201シンポジウム「地域の適応実装を支える適応策立案支援システムの課題と展望」	
6. 研究費の取得状況				
1. 気候変動適応実践支援システムの構築	共	2025年4月~2030年3月	環境再生保全機構 環境研究総合推進費 S-24-1(1)	S-24 気候変動適応の社会実装に向けた総合的研究 テーマ1 気候変動適応実践支援システムの構築と応用に関する研究
2. 適応の効果と限界を考慮した地域別気候変動適応策立案支援システムの開発	共	2022年4月~2025年3月	環境研究総合推進費 環境問題対応型研究（技術実証型）	国立環境研究所、農業・食品産業技術総合研究機構、東京都立大学
学会及び社会における活動等				
年月日	事項			